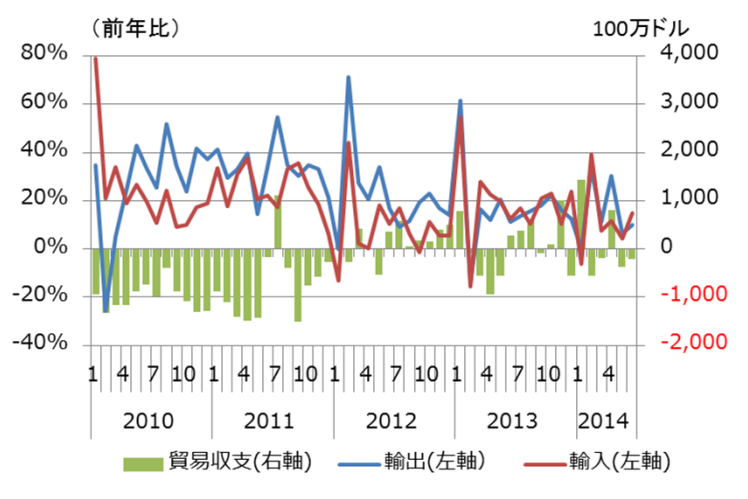
ベトナム：GDP及び経済概況

MRI Daily Economic Points
July 1, 2014

実質GDP（年初来）の推移

資料：CEIC

輸出入の推移



資料：CEIC

評価ポイント

今回の結果

- ベトナム統計局発表の2014年1-6月期の実質GDP（年初来）は前年比+5.2%となった。4-6月期の実質GDPは前年比+5.3%と、前期（1-3月期改定値、同＋5.1%）より伸びが加速。
- GDPの産業別内訳（4-6月期）を見ると、サービス業が同+6.1%となり、堅調な内需を背景に、引き続きサービス業が経済全体を牽引した。また、鉱工業が前年比+6.2%、建設業が同+5.5%と、それぞれ前期（1-3月期：同+4.5%、同+3.4%）より伸びが上昇、1-3月期に鈍化した生産活動も総じて復調傾向が見られる。
- 回復傾向が強まっている鉱工業の動きをみると、6月の生産は、前年比+12.4%となり、前月の伸び（同+6.4%）を上回った。業種別では、原油生産の落ち込みで、鉱業の不振が続いているものの、製造業は前年比+17.9%と前月（同+8.7%）から伸びが加速。特に、自動車・二輪車（前年比+41.3%）、繊維（同+33.4%）、靴製品（同+24.5%）、電子部品（同+31.6%）などが引き続き好調を維持している。
- こうした生産の持ち直しの背景には、輸出の回復がある。1-6月累計の輸出額は前年比+14.9%、輸入額は同+11.0%となった。6月（推定値）の輸出額は前年比+9.9%、輸入額は同+14.7%で、輸出入ともに外資企業が牽引しており、6月の外資系企業による輸出は前年比+11.4%、輸入は同+13.6%となった。
- 一方、インフレ緩和も内需回復を後押ししている。消費者物価指数（CPI）は、6月は前年比+4.98%と前月（同+4.72 %）からは上昇したものの、2014年2月以降、前年比+4%台後半で推移している。前年比+5-7%台で推移した昨年と比較し、基調としてインフレの緩和傾向が続いている。

今後の見通し

- ベトナム経済は、4-6月期は、輸出の回復や生産の持ち直し、インフレ緩和を受けた内需の回復などから、やや持ち直しの兆しを見せている。
- 銀行の不良債権問題への懸念はくすぶっているものの、輸出促進の観点から6月19日には約1年ぶりに通貨ドンを切り下げた影響もあり、今後も輸出に牽引された成長が続くと見られる。

Copyright (c) Mitsubishi Research Institute, Inc.

担当：政策・経済研究センター　対木　さおり　TEL 03-6705-6087